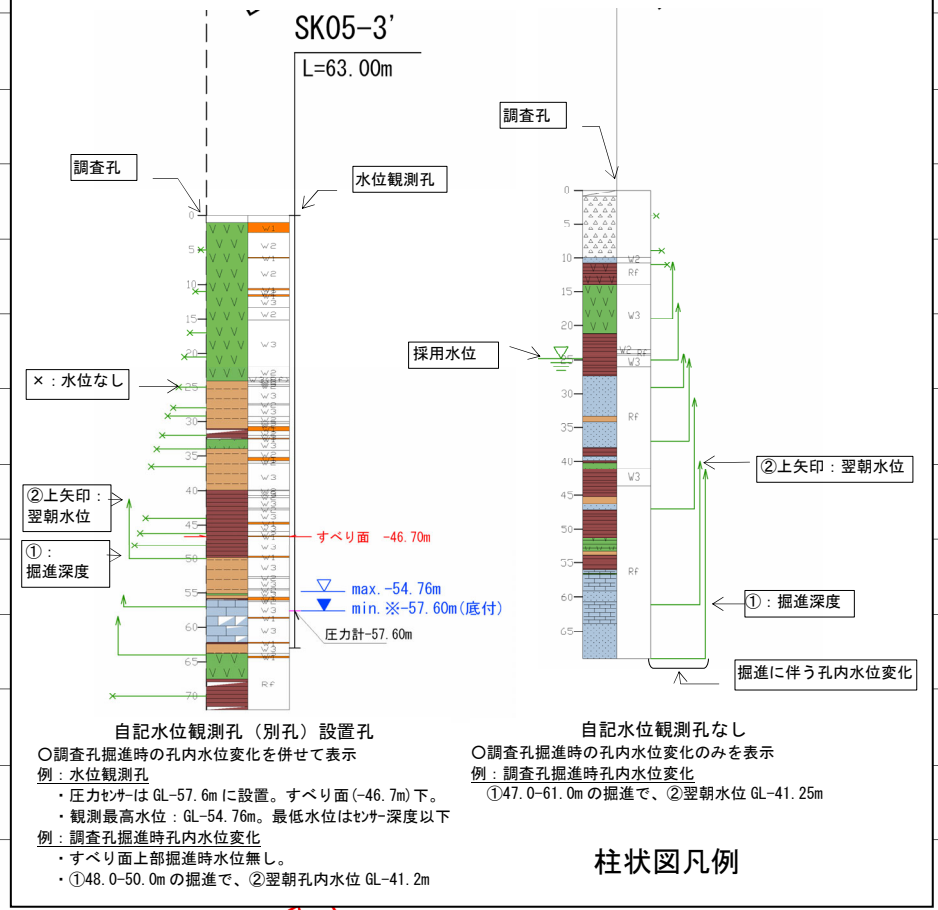
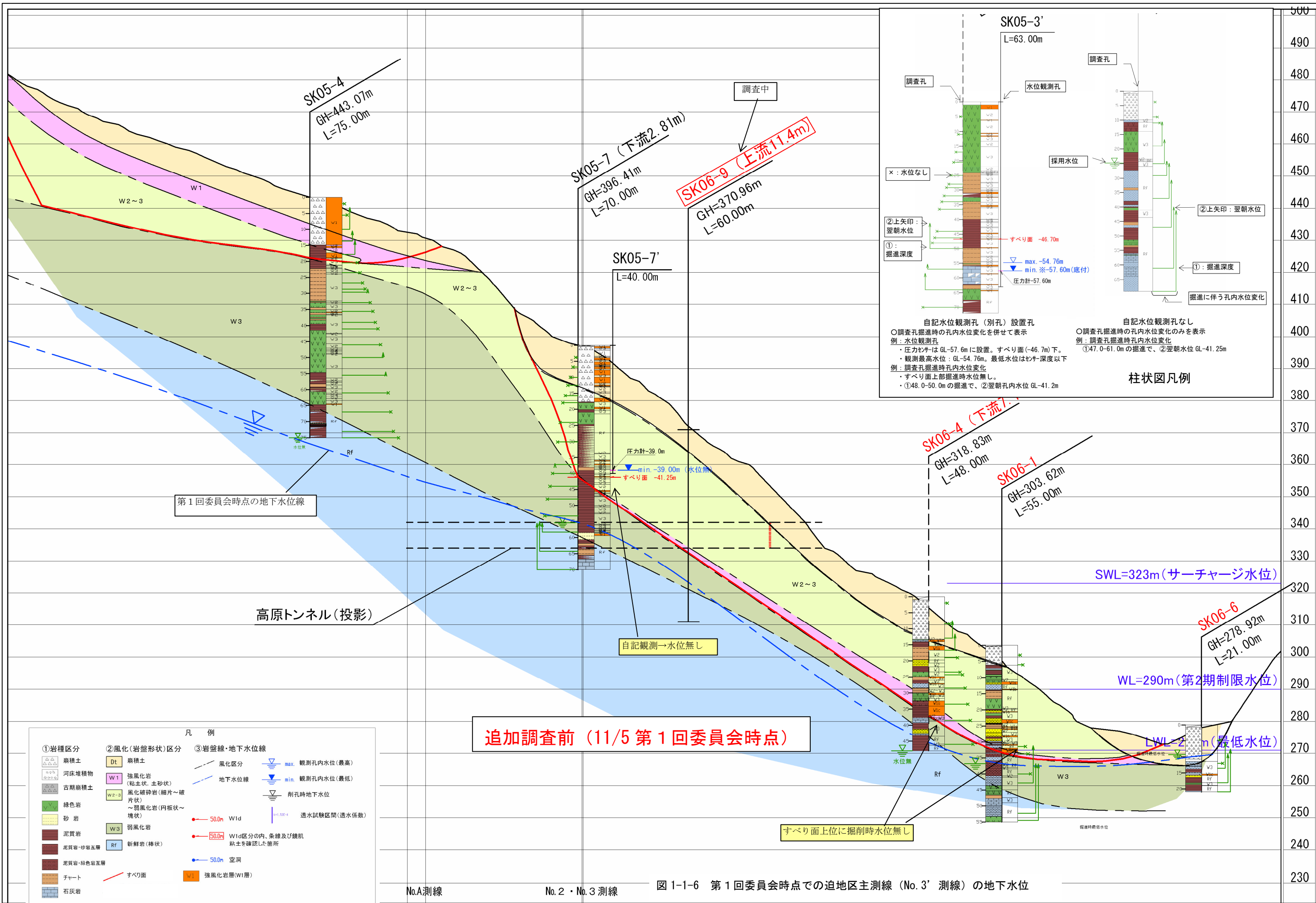


§ 1. 追加ボーリングによる設計条件の精査		
事 項	要 点	備 考
<b>1-1 迫地区</b> 1-1-2 地下水分布   1) 初期地下水位設定方針	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1回大滝ダム貯水池斜面对策検討委員会（H18.11.5開催：以下「第1回委員会」）において、迫地区の下部すべり初期地下水位は、すべり面下として確認されている。</li> <li>・ しかし追加調査孔2孔のうちの1孔（SK06-8孔）で、すべり面上に存在する水位が、掘進中に観測された。</li> </ul> </div> <p>第1回委員会において、初期地下水位の設定方針が確認されている。今回の追加調査でもこの方針を踏まえた。</p> <p style="text-align: center;">迫地区初期地下水位設定方針（第1回大滝ダム貯水池斜面对策検討委員会資料より引用）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【迫地区初期地下水位の設定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各ボーリング地点における地下水位の設定は、下記によるものとする。               <ul style="list-style-type: none"> <li>① 自記地下水位観測結果を優先。長期的な安定水位を採用。</li> <li>② 自記地下水位観測がない地点は、掘進作業翌朝の孔内水位観測結果を踏まえ、地下水位を設定。                   <ul style="list-style-type: none"> <li>1) すべり面近傍の掘進作業において、すべり面上部に翌朝水位*が観測された場合、地下水位はすべり面上部にあるものとする。</li> <li>2) すべり面上部にて地下水位が観測されなかった場合、地下水位はすべり面下部にあるものとする。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> </div> <p>図1-1-6に、第1回委員会時点（追加調査実施前）における、迫地区主測線（No.3'測線）の風化区分断面図と地下水位線を示す。</p>	<p>※翌朝水位： 調査孔掘進時に観測した水位のうち、削孔水の影響が少ない掘進作業翌朝に確認した水位</p>



**凡例**

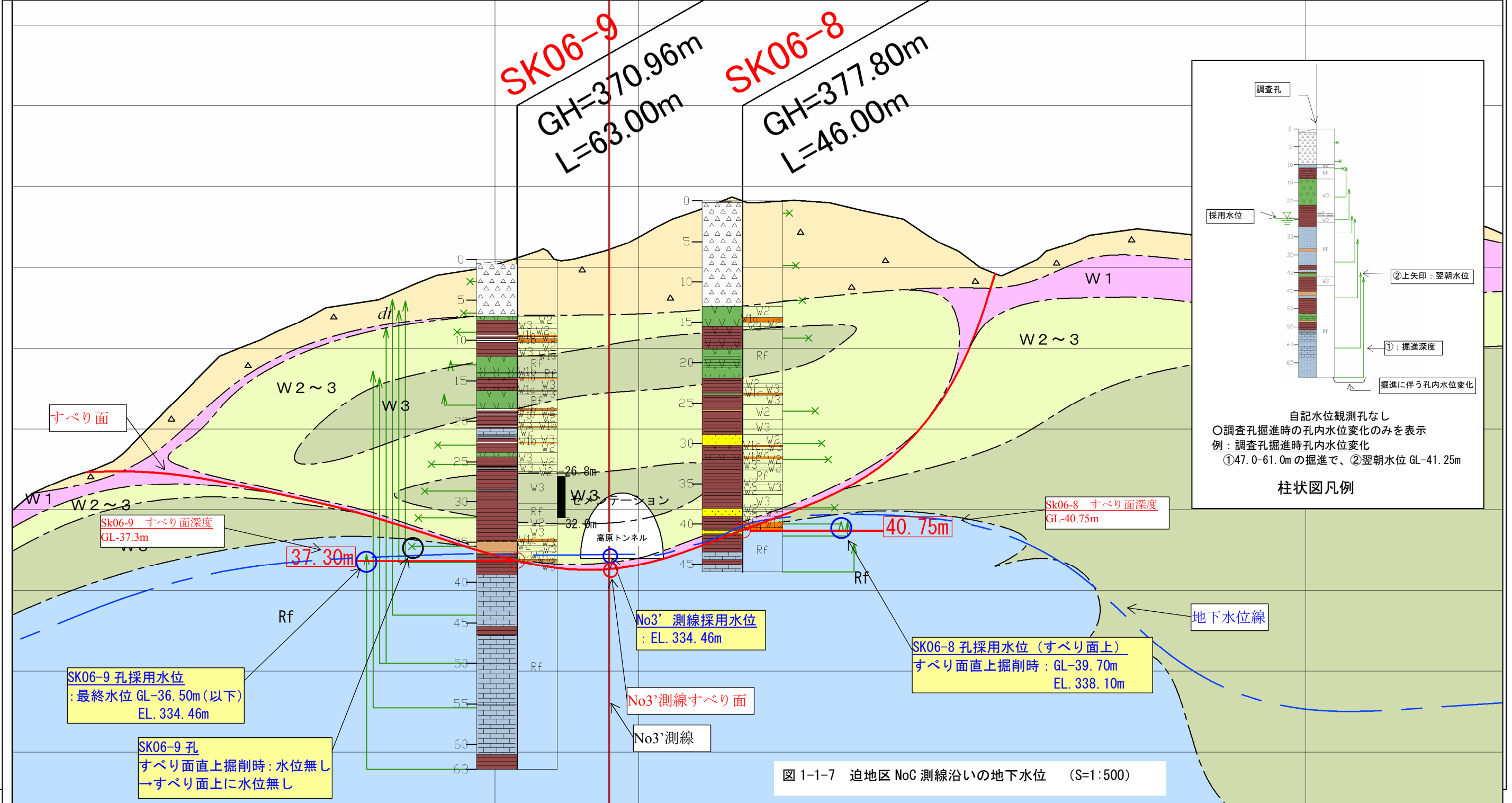
①岩種区分	②風化(岩盤形状)区分	③岩盤線・地下水位線
崩積土	Dt 崩積土	風化区分
河床堆積物	W1 強風化岩 (粘土状、土砂状)	地下水位線
古期崩積土	W2-3 風化破砕岩(細片~破片状) ~弱風化岩(円板状~塊状)	max. 観測孔内水位(最高)
緑色岩	W3 弱風化岩	min. 観測孔内水位(最低)
砂岩	Rf 新鮮岩(棒状)	削孔時地下水位
泥質岩		透水試験区間(透水係数)
泥質岩・砂岩互層		50.0m Wid 50.0m Wid区分の内、条線及び鏡肌 粘土を確認した箇所
泥質岩・緑色岩互層		50.0m 空洞
チャート		すべり面
石灰岩		W1 強風化岩層(W1層)

**追加調査前 (11/5 第1回委員会時点)**

No.A測線 No.2・No.3測線 図1-1-6 第1回委員会時点での迫地区主測線 (No.3' 測線) の地下水位

§ 1. 追加ボーリングによる設計条件の精査

事項	要点	備考
1-1 迫地区 1-1-2 地下水分布 2) 追加調査孔掘進時水位	追加調査孔2孔（SK06-8, SK06-9孔）の実施地点は、ともに主測線(No3'測線)より10m以上離れた位置にあるため、調査孔2孔を結ぶ測線（NoC 測線）を新たに設定し、ボーリング掘進時の地下水位観測記録から、地下水位分布を検討した。 図 1-1-7 に地下水位設定方針を踏まえ、SK06-8、SK06-9 孔の掘進時の地下水位観測記録から設定した、NoC 測線上の地下水位分布を示す。 SK06-9 孔は、すべり面付近掘進中に、すべり面上で翌朝水位が観測されなかったが、SK06-8 孔ではすべり面付近掘進中、すべり面上で翌朝水位が観測された。掘進時の水位観測記録に基づけば、NoC 測線上では、地下水位がすべり面上に存在し、高原トンネル底面付近で平衡状態に達する。	SK06-8 孔で水圧式水位計による自記水位観測を開始。



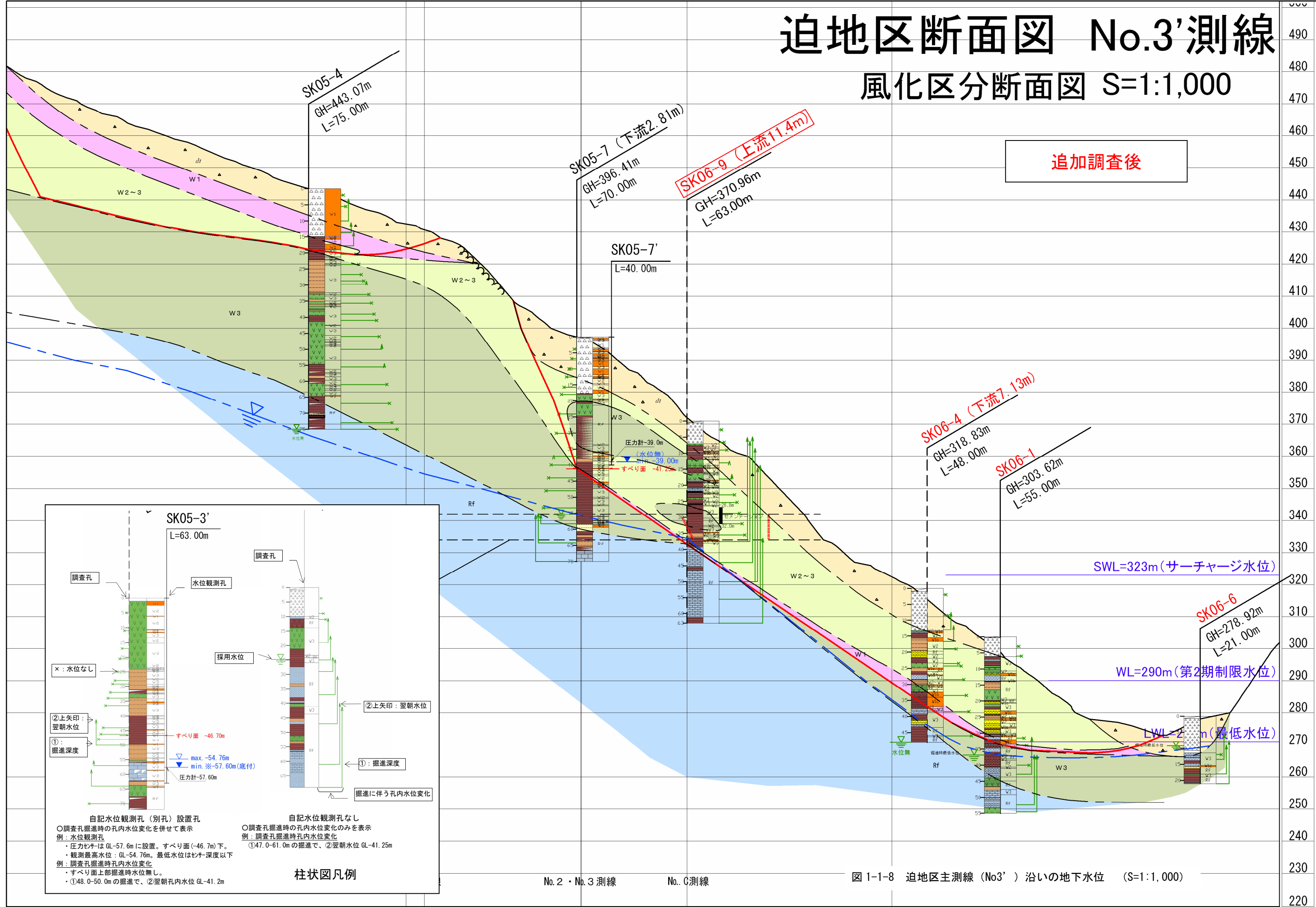
§ 1. 追加ボーリングによる設計条件の精査

事 項	要 点	備 考
<p>1-1 迫地区</p> <p>1-1-2 地下水分布</p> <p>3) 主測線上の地下水位</p>	<p>図 1-1-8 に、主測線 (No3'測線) 上の地下水位分布図を示す。</p> <p>No.C 測線上の地下水位検討結果を踏まえ、主測線 (No3'測線) 上の地下水位を検討した結果、高原トンネル底面付近のすべり面より上位で、地下水位が存在する。</p>	

# 迫地区断面図 No.3'測線

風化区分断面図 S=1:1,000

追加調査後



**SK05-3' L=63.00m**

調査孔

水位観測孔

採用水位

②上矢印: 翌朝水位

①: 掘進深度

掘進に伴う孔内水位変化

自記水位観測孔 (別孔) 設置孔

○調査孔掘進時の孔内水位変化を併せて表示

例: 水位観測孔

- ・圧力センサーはGL-57.6mに設置。すべり面(-46.7m)下。
- ・観測最高水位: GL-54.76m。最低水位はセンサー深度以下

例: 調査孔掘進時孔内水位変化

- ・すべり面上部掘進時水位無し。
- ・①48.0-50.0mの掘進で、②翌朝孔内水位GL-41.2m

柱状図凡例

No. 2・No. 3 測線

No. C測線

図 1-1-8 迫地区主測線 (No3') 沿いの地下水位 (S=1:1,000)